

目的 先に実施した人工皮革を用いて行つたベーシックな身頃に、ストレートスリーブの設計条件を基本として、今回は、人工皮革及び織布の毛、ポリエステル、麻などの四種を用いて、袖つけ時の「いせこみ」量の最良の条件を見出す目的で行つた。

方法 人工皮革の厚地及び薄地、並びに織布の毛100%、麻100%、ポリエステル100%の5材料を用い、それぞれの袖山の寸法の異なる5段階の試作を行い、袖つけ時の「いせこみ」量の各条件での適合性の比較検討を行つた。

結果 人工皮革の場合では、「いせこみ」の安定する最大量は3cmであり、それ以上のいせこみ量になると、ひずみとなつて表われる。厚地の場合と薄地の場合の差は、前者は大きなひずみとなり、後者は細かいひずみとなつて出現する。

次に織布であるが、まず毛織物の場合は各条件の「いせこみ」量ともきれいに安定し、最大「いせこみ」量5.2cmでも適合している。また、ポリエステルも「いせこみ」量の安定が全ての試料に於いてみられるが、「いせこみ」量と袖の安定の良好な範囲は3-5.2cmであると思われる。麻の場合は、「いせこみ」量4.2cmが「いせこみ」量の限界と思われる。「いせこみ」量が多くなる場合は、人工皮革ほどではないがひずみが現われるようになる。以上のことから、今回の試料に於いては、毛・ポリエステルの「いせこみ」量の最大限界は5.2cmとなり、厚い人工皮革の「いせこみ」量の限界は3.2cmであることが明らかとなつた。また、人工皮革の場合、その材料の厚さの差異によつて、「いせこみ」量を特に変える必要のないことも確認できた。